



郷土史抄

故濟先生の遺影を憶ふ 八  
(瀧川家の史料採訪)

予は今尚ほ自叙の非難と之に對する松井家の奇行、諷刺を舊藩士より往々聞くが、その度びに此等の誤解を訂正するに否ならぬ者である。けれども偉なる故人の顯表に對して、其の遺族の之が方法に就いて、乃ち松井家の斯の運動と建碑並に傳記編纂等が、餘りに非郷土的にして、杜撰極まるものに痛嘆せざるを得ない。尤も是れは予一人の評ではなく、苟しくも舊藩藩人は更なり、磐城の心ある士の誰れもが感ずることであらう。

さて世良低徳の首は、其の時白石驛に假葬したが、角田縣に續いで宮城縣が改葬の事を稟請し、明治九年五月、刈田郡藏本村に移轉、處葬し、且つ碑を立て木柵を繞らして舊墓を一變した。本年六月二十二日、明治大帝、初めて東北に御巡幸あらせられるや、彼れを追悼し祭料を賜ひ、磐前縣令村上光雄に命じて之を修せしめ給ふ。是れに於て八月十三日、瀧川濟が之に出張し、自ら祭文を草して英靈に敬白し、又次の長詩を捧げ其國難に燃れたるを頌仰した

奉追悼參謀世良先生  
東垂國難當路國、掃劔待我  
世良君、披掛一綽參廣談、  
奮然誓期殲賊軍、奇策妙算  
貯滿胸、盡力欲奏不世勳、  
中途豈圖刺客、空捨寶々七  
尺身、從是二國反附賊、其  
奈國子而名分、總督又噴矢  
謀士、日夜淚痕或濕襟、記  
得同盟會等交、言貌宛然夢  
寢存、旗亭把杯共談古、露  
窓聯案互聯文、梁中執事

居一、麗澤愛益城可頌、聞  
君東征欲追隨、如何忽忽計  
音聞、今日我亦隨東征、欲  
披掛無形荒墳、泉下當待泉  
兩賊、首級捧祭英魂、  
瀧川濟 拜草

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三三 平町 用命は 三三三

平町	正	正	正	る	食	し
レストラン	しい	しい	しい	る	事の	つか
サロン	酒	喫	食	る	の出	かに
	場	茶	堂	来		

平町 紺屋町 藤沼醫院

電話 五〇七番

最新流行の「流線型」  
上品な日和下駄、皮製の草履  
お履物は、品が豊富で  
値段の安い

會津桐 小松履物店  
自製製門 平警察署通り(電話六七三)

お醤油は ヤマフル

醤油味 正味 正味 正味  
たひら 正味 正味 正味  
鯉節食料品

山崎合名會社  
電話 一七〇番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎  
電話 一七〇番

清爽簡易な  
サンマードレス  
婦人用のお子さん用  
特價品豊富陳列

中元贈答用品...各種

ツルヤ  
電話 一四〇番

洋服は 高島屋

注文並に既製品

夏物 入荷

澤山

高島屋洋服店  
電話 三三六

耳鼻咽喉科専門

鈴木正男  
鈴木醫院  
電話 五八番

(磐城共済病院) 福島縣平町電六四一

内科 院長 醫學博士 石山謙助  
小兒科 部長 醫學博士 佐藤尚輔  
産婦人科 部長 醫學博士 五十嵐雄二  
外科 部長 醫學博士 大町久藏  
皮膚泌尿科 部長 醫學博士 山澤正  
器病科花柳病科 部長 醫學博士 山澤正  
X線科 部長 醫學博士 石山謙助  
藥局 部長 醫學博士 鈴木寶雄  
事務局長 鈴木寶雄

帝國海上火災保險株式會社

平代理店 關内正一  
平町二丁目 阿部助次郎  
電話 一六番

入院 應請 明雲堂眼科醫院  
電話 六六九番

たる各種優秀藥

カクレール (三十三日分) 定價 一圓七角  
スピロイン (定價 三圓) 定價 一圓十角

平町五丁目角 特約販賣店 山野邊藥局

朝日新聞

金屋商店

百萬の富より健康

此新療法で病弱を御試しなさい

「治療代」は當分一回三十鐘として居りますがお  
家庭の事情により割引も施されます

嘔か實か百聞一見御試し下さい

治療所 日中は 城山藥園(電話一〇九)  
日没後は 二丁目自宅(電話四七〇)

治療士 飯田近治